公益財団法人 日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

探鳥会スタッフ通信　2016年12月号

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目 次

◆探鳥会訪問記
（特集・会員を増やすための探鳥会②）・・・1
◆私たちの探鳥会自慢・・・・・・・・・・16
「ご存知ですか？身近なツバメの３兄弟」
◆奥多摩支部が好日山荘で机上講座を開催しました・・・・・・・・・・・・・・・・・17
◆探鳥会保険集計結果・・・・・・・・・・18
（2016年10月分）
◆普及室からのお知らせ・・・・・・・・・20
・「探鳥会リーダーズフォーラム東日本」の締め切り間近！
・『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版の取り組み
◆今月の購読数・・・・・・・・・・・・・・23
◆探鳥会スタッフ通信の購読について・・・24
◆編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・24

◆探鳥会訪問記（特集・会員を増やすための探鳥会②）

11月号に引き続き、今月号では11月中に全国７か所で開催された「会員を増やすための探鳥会」（表１）の様子についてご報告いたします。

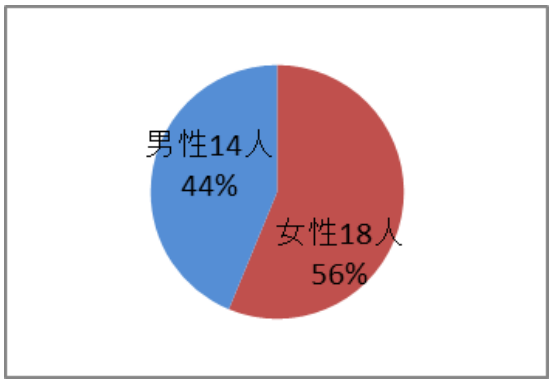
表 1.

	開催日	支部名	開催場所
No3	2016/11/6（日）	宮城県支部	仙台市博物館周辺及び青葉山公園内
No4		和歌山県支部	平池緑地公園
No5	2016/11/20（日）	宮崎県支部	平和台公園
No6	2016/11/23(水・祝)	秋田県支部	小泉潟公園
No7		東京	代々木公園
No8		滋賀	南郷（瀬田川洗堰周辺）
No9		奈良支部	平城宮跡・水上池

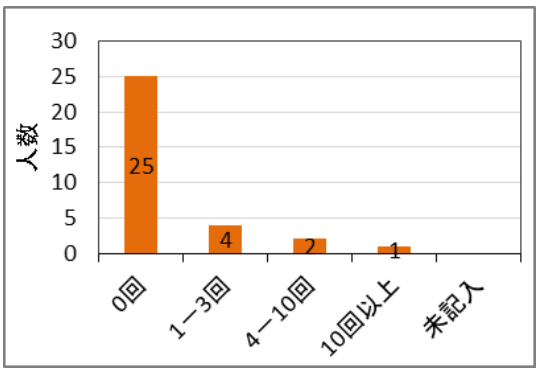
はじめてのバードウォッチング in 青葉山　（宮城県支部）

【日時】2016 年 11 月 6 日（日）9 時 00 分～11 時 40 分
【天候】晴れ
【場所】仙台市博物館周辺及び青葉山公園内
【参加人数】32 名（うち一般参加者 32 名）
【リーダー】6 名
【お試し入会】3 名（一般参加者のうち約 9%）
【広報】
　＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook
　＜メール＞一斉メール送信（10/3、6 全国 42,325 名に送信）
　＜チラシ＞探鳥会のご案内（10/20 から全国約 50,000 名に送付）
　＜新聞＞河北新報

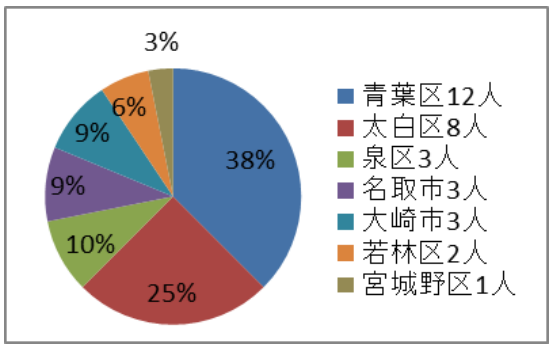
【性別】



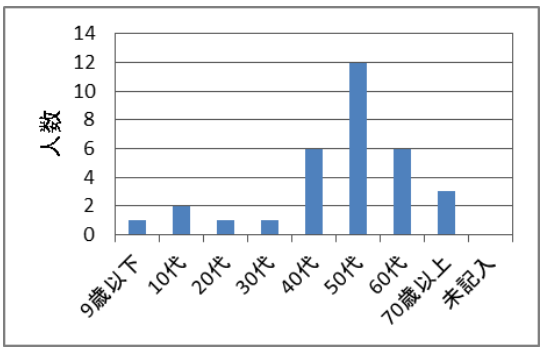
【バードウォッチングの経験回数】



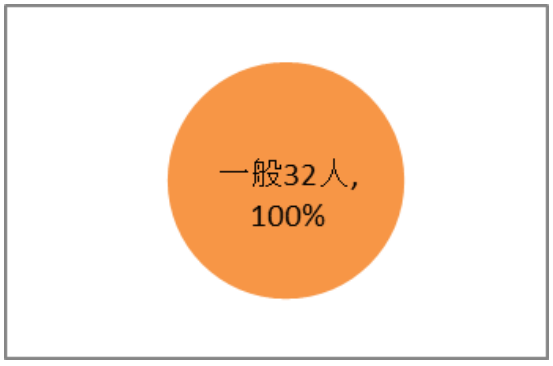
【お住まい】



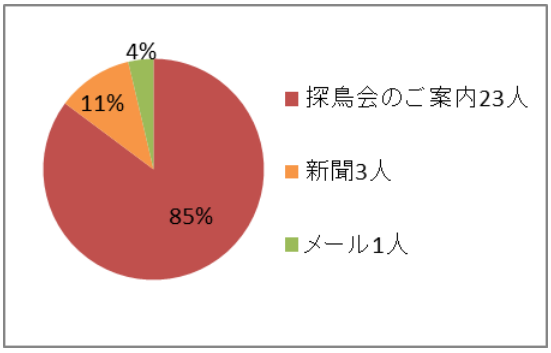
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■探鳥会概要

宮城県支部は、今年度から「会員を増やすための探鳥会」に参加してくださいました。支部が青葉山定例探鳥会を開催している場所で、開始時間を遅くし、またコースを短くして実施されました。

開催場所の青葉山公園は、広瀬川右岸にある仙台城を中心とした都市公園です。最寄駅から徒歩 10 分でアクセスも良い場所です。

事前申し込みで 32 名が集まり、4 班に分けて参加者８名にリーダー1 名が対応するかたちで運営されました。集合場所はお堀の一部である長沼のそばで、そこから長沼沿いを南に移動し、沼と林、最後に川で観察をしました。

■探鳥会の様子

紅葉も見ごろな秋晴れの中での開催となりました。

受付には受付案内の紙が貼られたテーブルが用意されていました。参加者が見えると、出欠確認と資料の配布をし、班分けの印の付いた名札をお渡しして記名してもらいました。希望者には双眼鏡の貸出を行い、手の空いているリーダーが個別に使い方を説明していました。

全体でのあいさつやリーダーの紹介があり、その後は班ごとの行動になりました。オシドリ、エナガ、シジュウカラ、コゲラの 4 班に分かれ、私はエナガ班に加わりました。

班で集まり、リーダーが「バードウォッチングが初めての方」と聞くと全員の手が挙がりました。

「みんな初心者なので、恥じらうことなく何でも聞いてくださいね。天気も良いですし、秋のお散歩としても楽しみましょう。」

とのリーダーの言葉に、参加者も安心した様子て笑顔になっていました。

▲班ごとでのあいさつの様子

長沼では、まずカルガモを観察しました。嘴の先の黄色、足のオレンジ色、翼鏡の青色など、リーダーが紹介する観察のポイントをそれぞれが双眼鏡で確認していました。

「よく見えます。かわいいですね。」

「ちらっと見える青色がきれい。」

と声が上がり、徐々に双眼鏡の扱いにも慣れていったようでした。

林の中では小鳥が中心となり、参加者が観察するのが難しい場面もありましたが、双眼鏡でスズメバチの巣や紅葉も楽しみながら進みました。

そんな中、リーダーが崖で、巣穴の前にとまるハヤブサを発見。望遠鏡で代わる代わる観察したり、自分の双眼鏡で観察したりと、参加者も大喜びでした。

最後に広瀬川でカモ類の観察をし、4 班そろっての鳥合わせとお試し入会の案内がありました。「青葉山定例探鳥会でのベテランガイドによる個別対応」という特典も案内され、３名の方がお試し入会されました。

■参加者の声

20 代男性：仕事で仙台に住むようになりました。東京へ出掛けたときに「おさんぽ鳥図鑑プレゼント葉書」見て小冊子に申し込み、一緒に届いた「探鳥会のご案内」を見て参加しました。

40 代女性：ハヤブサがこんなに身近にいるとは思いませんでした。見ることが出来て本当にラッキーでした。

■まとめ

少人数の班分けとリーダーの気さくな人柄もあり、アットホームな雰囲気で探鳥会が進みました。一方、終了後の反省では、予定より時間が長くなってしまったことがあげられていました。

今回は事前申込制であったため、支部では、探鳥会終了後に、当日の集合写真とともに、他の探鳥会の予定やお試し入会の案内をメールでお送りしたそうです。実際に他の探鳥会に参加される方や、双眼鏡に関する質問を寄せる方、新たにお試し入会される方（2 名）もいらっしゃったそうです。

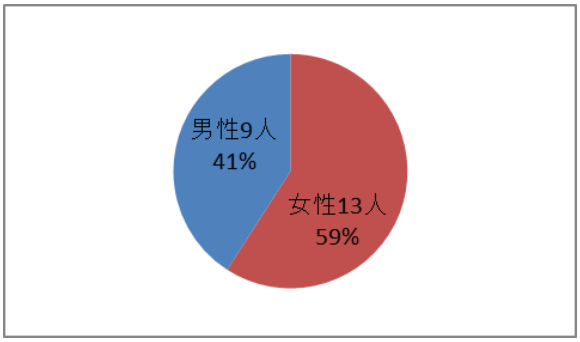
一度参加してくださった方を大切にし、バードウォッチングを楽しんで欲しいことや入会を歓迎しているメッセージを伝える、細やかな心配りの賜物なのだと思いました。

（普及室／堀本理華）

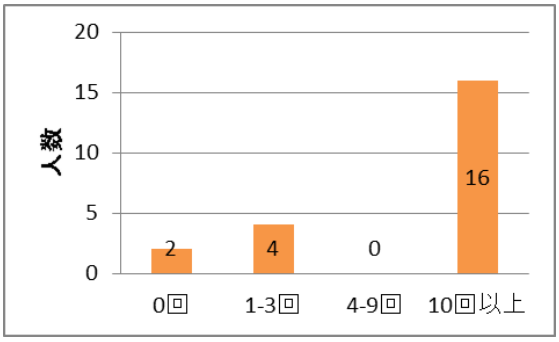
タマ電車に乗って楽しい水辺の野鳥観察　（和歌山県支部）

【日時】2016 年 11 月 6 日（日）9 時 00 分～12 時 00 分
【天候】曇り
【場所】平池緑地公園
【参加人数】22 名（うち一般参加者 8 名）
【リーダー】5 名
【お試し入会】0 名
【広報】＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook
＜メール＞一斉メール送信（10/3、6 全国 42,325 名に送信）
＜チラシ＞探鳥会のご案内（10/20 から全国約 50,000 名に送付）
＜新聞＞掲載紙不明

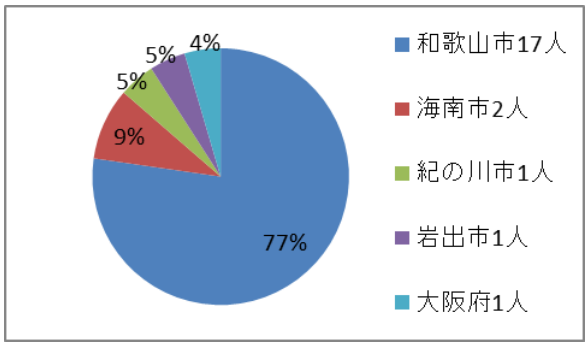
【性別】



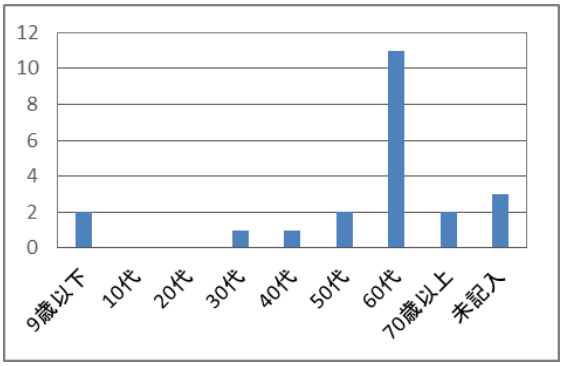
【バードウォッチングの経験回数】



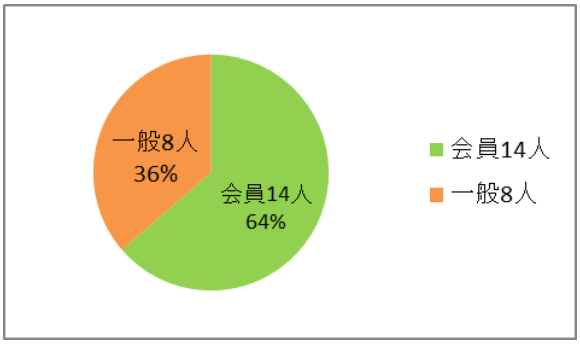
【お住まい】



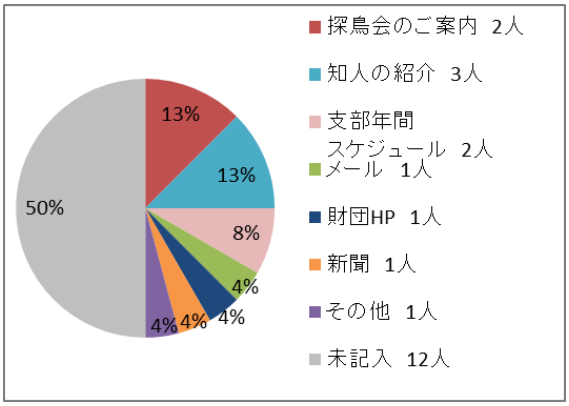
【年齢】



【会員/一般】



【何で知ったか】



■探鳥会概要

和歌山県支部で３回目の「会員を増やすための探鳥会」となる今回は、開催場所や申込方法を変えての実施となりました。

三毛猫の「たまⅡ世」が駅長を務めることで有名な和歌山電鉄貴志川線。この国内外から多くの観光客が訪れるローカル線沿線に平池緑地公園はあります。県内でも有数の広さの用水池である平池は、多種の水鳥･渡り鳥が生息する「野鳥の楽園」としても市民に親しまれています。

広い水面を巡る約 1.5km の見通しの良いコースで、同時開催の定例探鳥会参加の会員とともに一般参加者が初めてのバードウォッチングを楽しみました。

■探鳥会の様子

曇ってはいるものの、風もなく穏やかな天候の中、集合場所の公園駐車場に参加者が集まってきます。今回の探鳥会は事前申し込み制を採用され、リーダーが参加者のお名前を確認しながら受付名簿への記入を促します。少し硬い様子だった初めての参加者もリーダーのにこやかな出迎えに緊張がほぐれていくようでした。

挨拶とコース説明のあと、定例観察会参加の会員と一緒に歩きはじめました。

リーダーが先頭を歩きながら水面に浮かぶカモ類の説明をする傍らで、会員がさりげなくスコープを説明中のカモに合わせて参加者に観察を勧めている場面があちこちで見られます。

初めてスコープを覗いた参加者から
「カモってとてもきれいな色ですね。」
「あの鳥は何をしているんですか。」
など、次々に出てくる感想や質問をリーダーが丁寧に拾い上げて、次の観察につなげておられました。

参加者が水面に浮かぶカモ類の観察に随分慣れたころ、タイミングを待っていたかのようにカワセミが登場し歓声が上がりました。

後半は樹林内の小鳥にも観察の目を向けながら歩きます。夏にはツバメのねぐらになる事など、そのほかの季節の平池の様子などにも話題が及び、「また来たい」と思うきっかけを巧みに盛り込まれています。

小休止に飴やお菓子を提供して下さる方、初心者参加者の観察を自然にフォローして下さる方など、リーダー以外の会員が観察会へ積極的に関わる気風も素晴らしいと思います。

野鳥との出会い、会員との交流を満喫した参加者の充実した笑顔が印象的でした。

▲池のほとりでカモを観察

■参加者の声

60 代ご夫婦：今年初めの和歌山城公園での探鳥会、ツバメの観察会に続けて３回目の参加です。毎回楽しくて、次も参加したいです。

60 代男性：新聞の案内記事を見て申し込みました。双眼鏡を持たずに参加しましが、望遠鏡で鳥を見せてもらえたのでとてもよく観察できました。

■まとめ

参加者の中には昨年度の「会員を増やすための探鳥会」の参加者も数名おられ、お試し入会を飛ばして正式入会を決めて下さった方がいらっしゃいました。リーダーや支部会員皆さんの丁寧な対応が、参加者のリピート参加、入会に確実に繋がっていることを実感しました。

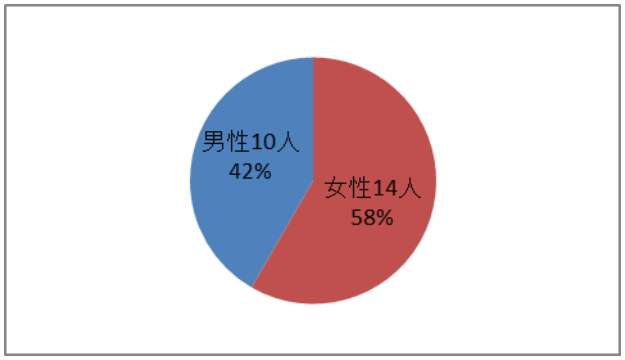
今回の探鳥会を企画する中で、和歌山電鉄とのつながりができたことを受け、支部と電鉄とのタイアップ企画も検討したいとのこと。新たな参加者層を開拓する、和歌山県支部の意欲的な取り組みに今後も注目したいと思います。

（普及室／浅野綾子）

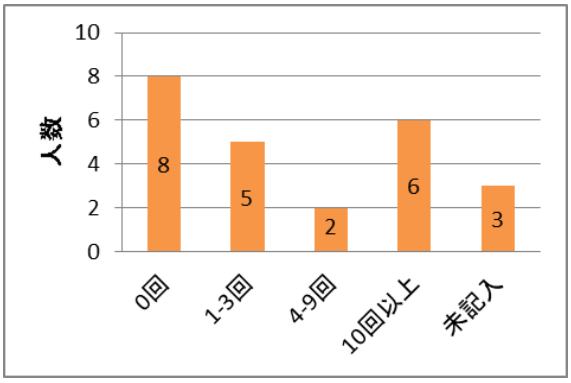
平和台公園で初めての探鳥会　（宮崎県支部）

【日時】2016 年 11 月 20 日（日）9 時 00 分～12 時 00 分
【天候】曇り
【場所】平和台公園
【参加人数】24 名（うち一般参加者 17 名）
【リーダー】5 名
【お試し入会】3 名（一般参加者のうち約 20%）
【広報】
　＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook
　＜メール＞一斉メール送信（10/3、6 全国 42,325 名に送信）
　＜チラシ＞探鳥会のご案内（10/20 から全国約 50,000 名に送付）
　＜新聞＞朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、宮崎日日新聞
　＜テレビ＞NHK（11/19 夕方）

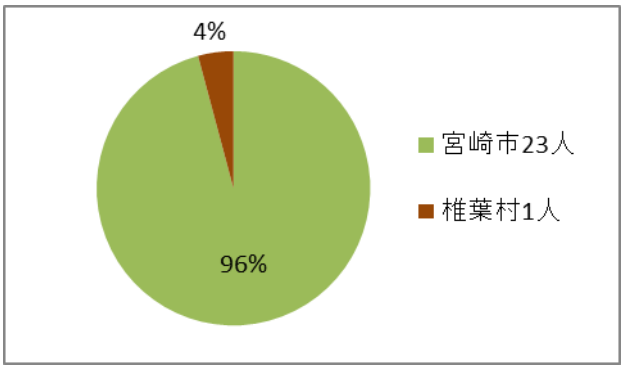
【性別】



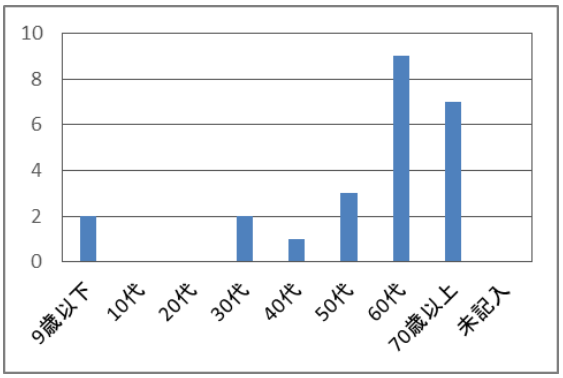
【バードウォッチングの経験回数】



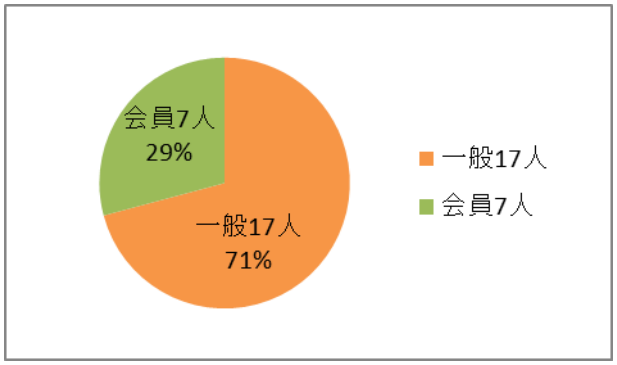
【お住まい】



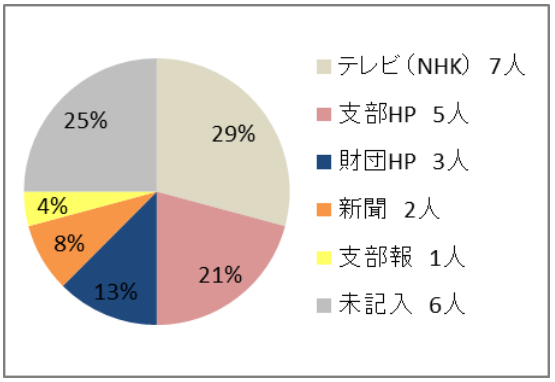
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■探鳥会概要

宮崎県支部では昨年より初心者向け探鳥会に取り組みはじめ、今年度から「会員を増やすための探鳥会」にご参加くださいました。事前広報が功を奏し、たくさんのマスコミに参加者募集情報を取り上げてもらえました。

開催場所の平和台公園は、宮崎市中心部の北に広がる丘陵地に設置された都市公園です。シンボルである平和の塔の周囲にはアスレチック広場や人口草スキー場、はにわ園、大花壇や自然散策路が整備され、都市公園では珍しくカフェやレストハウスが充実して、多くの市民が日常的に公園を利用いるようです。

探鳥会は公園内の樹林地帯から越ヶ池周囲を２時間半かけてゆっくりと巡りました。

■探鳥会の様子

前日の雨は上がり、足元も乾いて、安心して探鳥会が実施できる天候になりました。集合場所には望遠鏡がずらりと並び、配布資料を並べて次々とやって来る参加者をリーダーが出迎えます。

「おはようございます。こちらが受付です。」
「双眼鏡や筆記具のない方は貸し出します。」
と、きめ細かな声かけで初めての参加者の緊張をほぐしていきます。

開始時間になると挨拶、今日の見どころ、双眼鏡の使い方、コース、フィールドマナー、とそれぞれを担当するリーダーが見事な連係プレーで説明されます。続いて野外活動に潜む危険への注意喚起、自然観察に欠かせない五感を開くためのネイチャーゲームで一気に参加者の気持ちを高める流れでした。

いよいよ観察開始です。樹林帯を歩くと早速カラ類やエナガなどの混群に出会いました。
「種類の違う小鳥たちが集まるのは、弱くても皆で行動すれば怖くないからなんです。」
との説明に参加者が大きく肯いています。

開けた場所でカラスが現れるとすかさず、ハシブトガラス・ハシボソガラスについて説明。鳴き声タッチペンも駆使して、最も身近な鳥への興味を引き出していました。

越ヶ池ではカワセミが早速現れ、参加者はスコープを覗いて大興奮です。カモ類やオオバン、カイツブリなどもじっくり観察することができました。
「カワセミって本当にきれいですね。」
「今、水に潜った！あれはカモですか？」
と、参加者から口々に感想や質問が飛び出します。リーダーは鳥はもちろんのこと、散策路で見つけた植物や、太陽の光などフィールドにあふれる自然への気づきをさりげなく促して、探鳥会がどんどん充実していきました。

まとめの時間には、お茶やお菓子が振舞われ、あえて鳥合わせも省略し、今日印象に残った鳥を振り返るとともに、楽しい時間を共有できたことを皆で感謝しました。探鳥会の余韻を楽しみながらお試し会員のお誘いをして探鳥会を締めくくりました。

▲解説シートを使ってカラスの解説

■参加者の声

70 代女性：バードウォッチングは初めてです。一人では不安だけど皆で歩くと鳥のことをいろいろ教えてもらえて本当に楽しいです。

30 代男性：仕事場の近くでたくさん鳥が見られるので、もっと鳥の事を知りたいと思い参加しました。多くの方と情報交換できて良かったです。

■まとめ

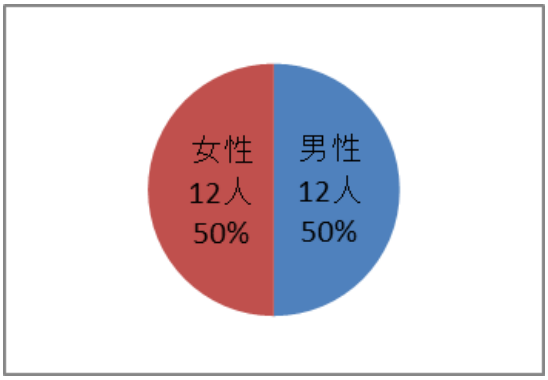
リーダーの役割分担や進行がよく考えられたプログラム構成が印象的でした。各リーダーが救急セットを携帯したり、最後尾担当のリーダーがいるなど、盲点になりがちな点を押えておられたのが素晴らしいです。４月から導入されたお試し会員制度で既に 33 名の入会があるのも、日頃からのきめ細かな探鳥会運営の賜物なのだと感じました。

（普及室／浅野綾子）

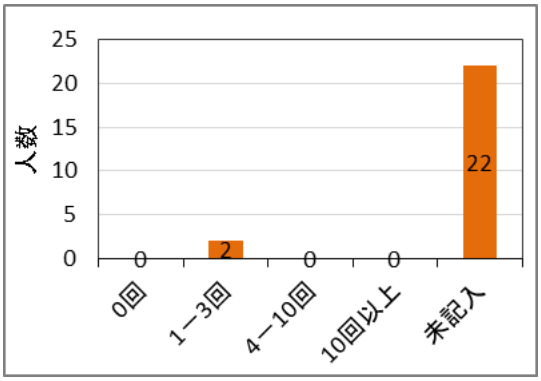
はじめよう！バードウォッチング in 小泉潟　（秋田県支部）

【日時】2016 年 11 月 23 日（水・祝）9 時 30 分～12 時 00 分
【天候】雪のち曇り
【場所】小泉潟公園
【参加人数】24 名（うち一般参加者 22 名）
【リーダー】8 名
【お試し入会】3 名（一般参加者のうち 15%）
【広報】
　＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook、秋田市観光ポータルサイト「Akitachi」
　＜メール＞一斉メール送信（10/3、6 全国 42,325 名に送信）
　＜チラシ＞探鳥会のご案内（10/20 から全国約 50,000 名に送付）
　＜新聞＞掲載紙不明

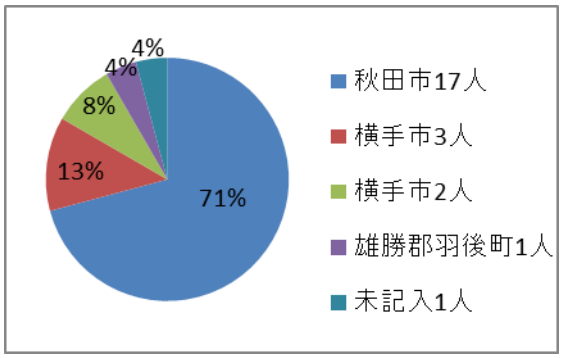
【性別】



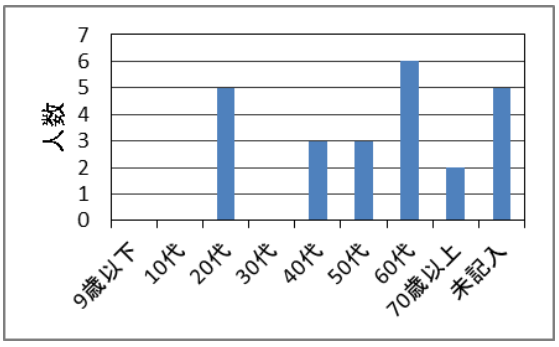
【バードウォッチングの経験回数】



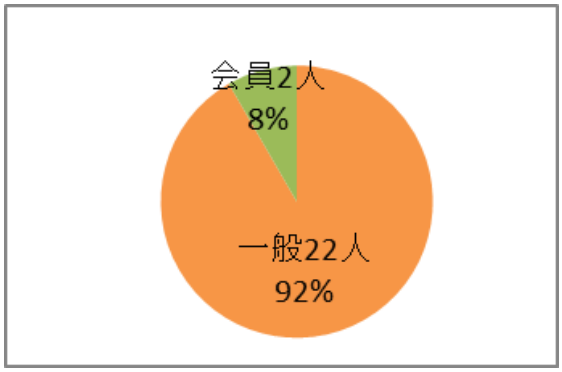
【お住まい】



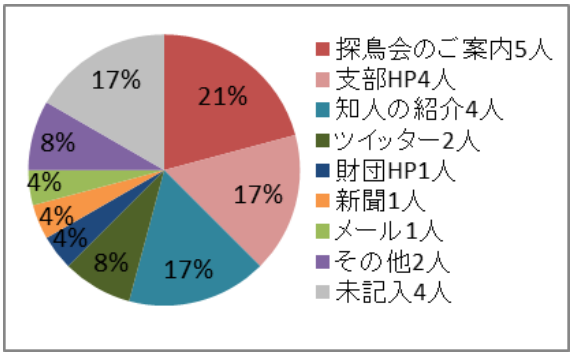
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■探鳥会概要

開催場所の秋田県立小泉潟公園は、秋田市金足にある県立公園です。県指定天然記念物である男潟、女潟の２つの沼を中心とし、園内には博物館や日本庭園などが整備されています。

この日は事前申込みで集まった 20 代、60 代を中心に 24 名が参加されました。その場で４班に分け、メインリーダーとサポートリーダーの計２名が参加者 6 名を対応するかたちで進行されました。

博物館駐車場に集合し、男潟でカモ類を観察後、広場や丘陵地の林で小鳥を探し、最後に女潟のカモ類を観察するコースでした。

■探鳥会の様子

心配されていた雪もあがり、気温は低いものの陽射しがある中での探鳥会になりました。

集合場所の駐車場に、次々に参加者が集まり、受付と希望者への双眼鏡の貸出が行われました。

９時 30 分になると挨拶とリーダーの紹介があり、４班に分かれての行動となりました。

まず男潟へ向かい、リーダーがカモ類を１種ずつ望遠鏡に入れて、イラストも使いながら紹介していきました。

▲イラストを使って解説

続いて広場を移動し、ハクセキレイを観察。

「小鳥はじっくり見るのが難しいので、行動にも注目するといいですよ。チチチっと鳴きながら波状に飛ぶのでハクセキレイと分かります。」

続いて、林の環境へ進みました。

「ここからは、目よりも耳が大事になってきます。声が聞こえたら、環境全体を見て、動くところを探してみてください。」

リーダーの案内のもと耳を澄ましながら歩いていると、シジュウカラの群れに遭遇しました。

「小鳥は天敵から隠れたいので、エサを採ると針葉樹に隠れることが多いです。」

という案内通りに、地面でエサを採ると松の木に逃げ込むシジュウカラの姿を皆で観察しました。

最後に女潟で、マガモやオナガガモなどを観察。冷え込んできたこともあり、早めに鳥合わせの会場に向かいました。

鳥合わせには、パークセンターの部屋が取ってありました。用意されていた温かいお茶で一息つき、11 時 30 分から鳥合わせとなりました。その後、お試し入会の案内や支部長からの「鳥を見て楽しみ、ときには自然保護のための意見も言う団体です。」

と会の紹介がありました。３名の方がお試し入会し、２名の方が正式に入りたいと入会申込書を受け取って帰られました。

▲室内でのまとめ

■参加者の声

50 代女性：カメラを買ってから鳥への興味が深まり、よく支部の HP を見ていました。探鳥会は朝早いことが多く、参加をためらっていましたが、今回は遅い時間だったので参加しました。とても楽しく、鳥がもっと好きになりました。

20 代女性：大学生です。モニタリングサイト 1000 の研修会でこの探鳥会のことを知り、参加しました。

■まとめ

イラストを使った説明に加え、鳥の見分け方や探し方のポイントを交えた解説があり、参加者は熱心にメモを取っていました。初めての方にもバードウォッチングのコツが伝わったのではないかと思いました。

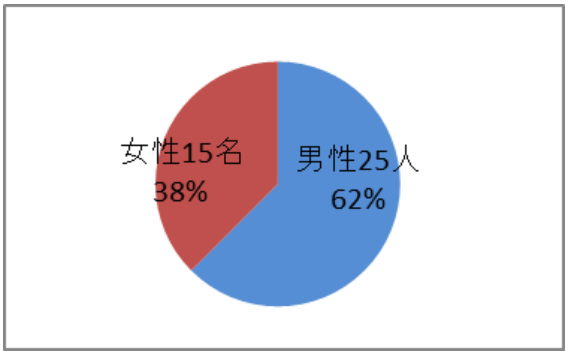
まとめを室内で行う「会員を増やすための探鳥会」は初めてでしたが、落ち着いた雰囲気の中、リーダーの話に聞き入る参加者の姿が印象的でした。

（普及室／堀本理華）

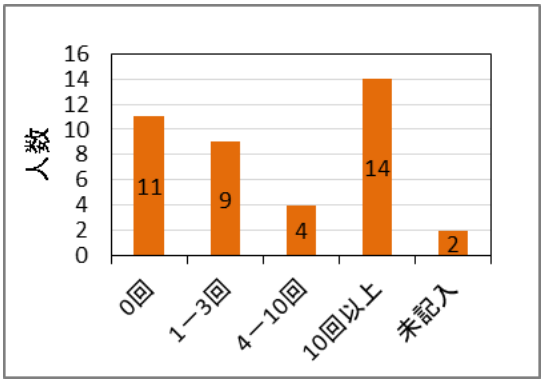
巣箱の中をのぞいてみよう！代々木公園巣箱かけ教室　（東京）

【日時】2016 年 11 月 23 日（水・祝）9 時 00 分～11 時 30 分
【天候】曇り
【場所】代々木公園
【参加人数】40 名（うち一般参加者 32 名）
【リーダー】5 名
【お試し入会】1 名（一般参加者のうち約 3%）
【広報】
　＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook
　＜メール＞一斉メール送信（10/3、6 全国 42,325 名に送信）
　＜チラシ＞探鳥会のご案内（10/20 から全国約 50,000 名に送付）
　＜新聞＞東京新聞（11/22 朝刊）

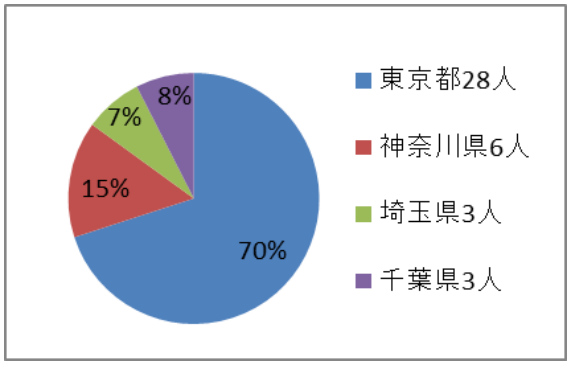
【性別】



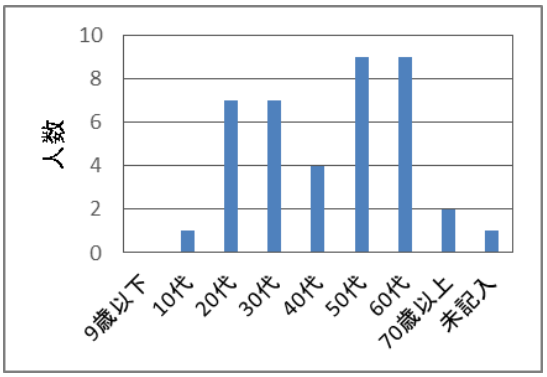
【バードウォッチングの経験回数】



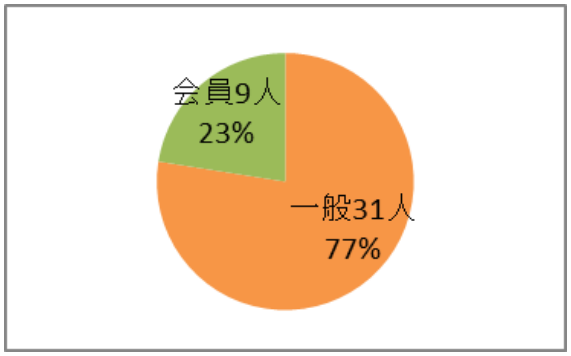
【お住まい】



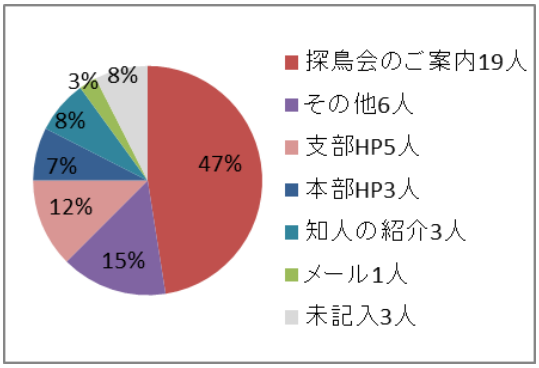
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■探鳥会概要

代々木公園は、原宿駅と渋谷駅の間にある都立公園です。隣接する明治神宮とあわさって、都心に広大な森を作っています。日本野鳥の会東京では、長年この園内に巣箱をかける活動を行っていて、年一回巣箱の補修や交換、営巣や巣材の調査を行っています。その活動を一般の方を募集して行なうのが、今回の探鳥会です。

■探鳥会の様子

はじめに、リーダーから巣箱を架ける意義や今までの活動についての説明がありました。次に、参加者は、新しい巣箱をつくるグループと、かけてある巣箱を取り外す作業を見学するグループに分かれ、作業をしました。その後、全員で外した巣箱を開けて、巣材の有無や形状、種類などを調査しました。最後に、壊れた巣箱を新しい巣箱と交換して木に取り付けました。

▲巣箱の中身を観察する様子

今回観察した５個の巣箱全てにスズメやシジュウカラの巣が作られた形跡がありました。巣材は、枯草やコケ、鳥の羽などのほか、犬の毛やお菓子の袋、レジャーシートの切れ端など。意外な発見に参加者のみなさんも興味を持って観察していました。また、巣材の隙間から、冬越し中と思われるカメムシやクモなどがぞろぞろと出てきて、巣箱が多様な生物に利用されていることに驚いていました。リーダーたちは、参加者から挙がる質問に答えながら、巣材の種類やシジュウカラとスズメの巣の違いなどを丁寧に説明されていました。

一部のリーダーたちが巣箱を外したり、観察の準備をしたりしている間、近くの木に 5-6 羽のアトリがやってきました。それを見つけた他のリーダーやリーダー以外の会員の方たちが、双眼鏡で参加者と一緒に観察し、巣箱以外にも楽しみがある会となりました。

終了時に、日本野鳥の会東京の活動や、お試し入会、図鑑など物販の紹介があり、１名がお試し入会をしたほか、２・３ 名の方が本入会を検討したいと申込書を希望されていました（後日２名が本入会）。

■参加者の声

50 代女性：横浜に住んでいますが、東京の方が馴染みがあるので参加しました。代々木公園にこんな場所があるとは知らなかったです。また参加します。

60 代女性：息子の双眼鏡を借りて来ました。双眼鏡の見方を教えてもらい良かったです。

30 代女性：以前、探鳥会に参加したことがありましたが、しばらく参加していませんでした。今回、探鳥会の案内を受け取り、アクセスの良い場所であることもあり、久しぶりに参加してみようと思いました。

■まとめ

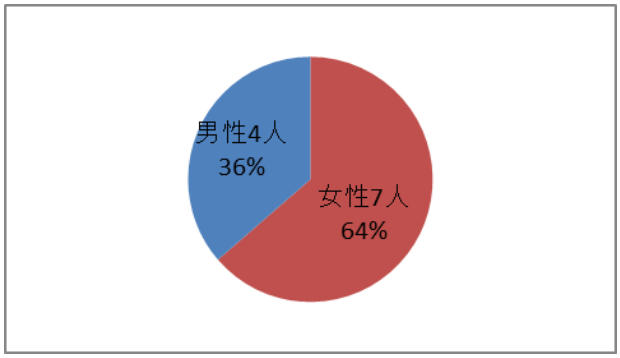
巣箱の中を観察するという普段なかなかできない体験は、参加者のみなさんの興味を引き付け、スズメなど身近な野鳥の意外な一面を知ることができる貴重な機会となったのではないかと感じました。また、巣材はだれもが手に取って観察できるため、参加者全員が同じものをじっくり観察することが出来ます。初めての方や子供向けの観察方法として、有効な方法と思いました。

（普及室／江面康子）

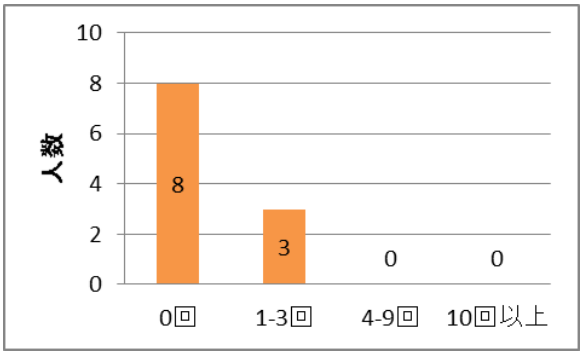
南郷で体験！バードウォッチング　（滋賀）

【日時】2016 年 11 月 23 日（水・祝）9 時 00 分～11 時 30 分
【天候】晴れ
【場所】南郷（瀬田川洗堰周辺）
【参加人数】20 名（うち一般参加者 11 名）
【リーダー】6 名
【お試し入会】5 名（一般参加者のうち約 45%）
【広報】
　＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook
　＜メール＞一斉メール送信（10/3、6 全国 42,325 名に送信）
　＜チラシ＞探鳥会のご案内（10/20 から全国約 50,000 名に送付）
　＜新聞＞産経新聞、朝日新聞、毎日新聞
【後援】ウォータステーション滋賀

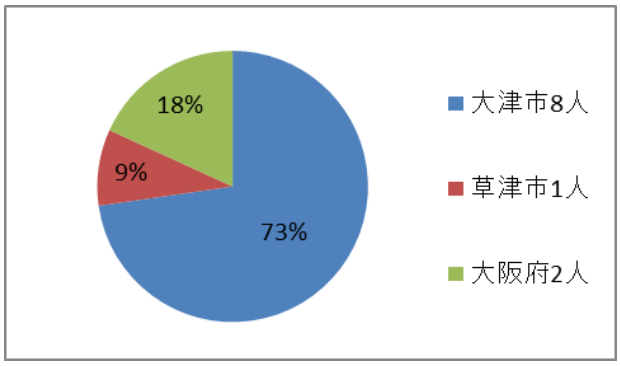
【性別】



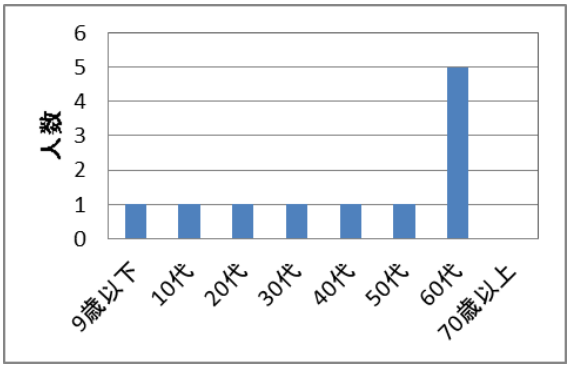
【バードウォッチングの経験回数】



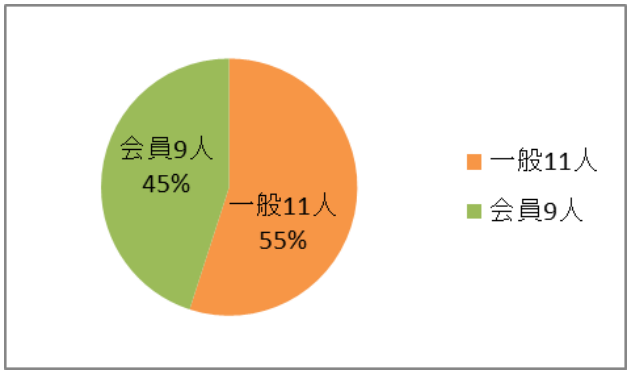
【お住まい】



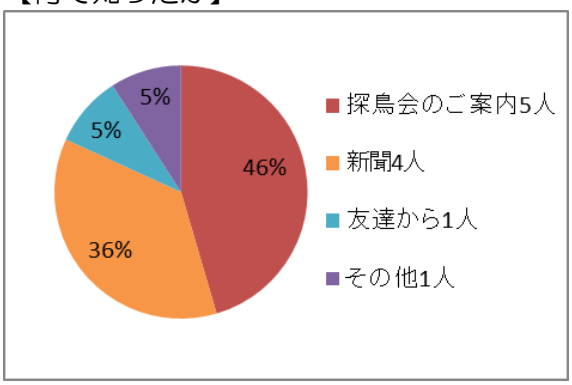
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



※会員は別受付だったため、【一般/会員】以外のグラフはすべて『一般参加者』のみを集計しています。

■探鳥会概要

滋賀では今年度から「会員を増やすための探鳥会」にご参加くださいました。

開催場所にある瀬田川洗堰は、琵琶湖から流れ出る唯一の天然河川・瀬田川に設置された可動堰で、周辺には展示館や水産センター、公園が整備されており、多くの人がレジャーで訪れる場所です。そのすぐ南では信楽盆地から流れ出る大戸川と瀬田川が合流し、秋から春にかけて多くの水鳥が見られる探鳥地としても有名です。

今回の探鳥会では、南郷公園～瀬田川洗堰～瀬田川・大戸川合流地点～水のめぐみ館　ウォータースステーション琵琶まで、約 1.5km の道のりを２時間かけて歩きました。

■探鳥会の様子

少し風はあるものの、気温の低すぎない外歩きには気持ちの良い晩秋の一日です。集合場所はバス停からも駐車場からもよくわかる公園入口にある休憩所です。参加者が受付しやすいように風を避けてリーダーが出迎えます。探鳥会開始までの時間にもトイレを案内するなど、参加者への心配りが細やかです。

一般参加者の受付の傍らでは会員の受付が行われています。スコープ持参の会員は会費無料とのこと。一般参加者にスコープでの観察機会を多く提供するべく、会員を巻き込むためのアイデアです。

９時、リーダーの挨拶で探鳥会が始まりました。コース・時間の説明の途中、上空にノスリが現れました。初めての参加者は
「どこ？どこ？」
と双眼鏡をウロウロさせています。それをよいきっかけに転じて、双眼鏡の使い方の説明･練習へと自然に流れができていきます。

瀬田川洗堰を通って対岸に移動する間は、琵琶湖と洗堰の地理や歴史が各リーダーから解説されています。コース途中では交通量の多い道路を横断する場面が何度かありましたが、安全に渡れるようリーダーがさりげなく参加者を誘導していました。

瀬田川を見渡せる場所ではカモ類を中心に観察します。たくさんスコープがあるので初めての参加者もじっくり観察でき、質問がたくさん出ていました。
「あの並んでいる白い鳥は親子ですか？」
「どうしてそう思いましたか？」
「大きさが違うみたいだから･･･」
「なるほど。望遠鏡でよく見てみましょう。」
と、次の観察へつなげる言葉かけもあちこちで見られました。

瀬田川と大戸川の合流点を巡って大戸川添いの遊歩道からはセキレイ類やカワセミ、イソシギが観察でき、参加者は感嘆の声を上げていました。

最後に「ウォータステーション滋賀」の暖かい会議室に入り、まとめの時間です。鳥合わせで 43 種を確認。参加者は短時間で多くの鳥に出会えてとても充実した様子で、散会後もリーダーや支部会員と話し込んで名残を惜しんでいる方がいらしたのが印象的でした。

▲暖かい室内で鳥合わせ

■参加者の声

40 代女性：双眼鏡の使い方がわかって随分観察できるようになって嬉しいです。

10 代男性：鳥が大好き。今まで図鑑で見ることが多かったけど、やっぱり実物が観察できる方が面白い。来て良かったです。

■まとめ

マスコミへの働きかけ、担当リーダー以外の会員も一体となって観察会を盛り上げるためのアイデア、お試し入会制度のお得感の演出、と初心者向け探鳥会を支部活動の中にしっかりと位置付けて臨んで下さいました。

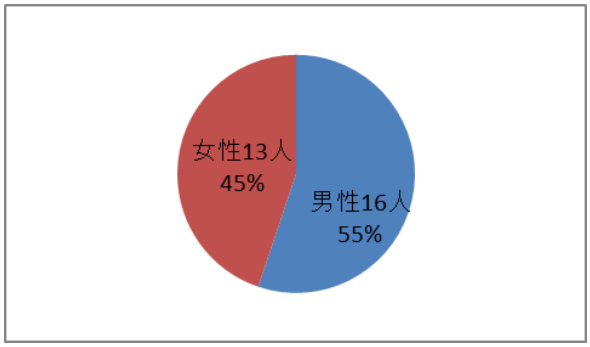
一般参加 11 名中５名のお試し入会があったことはリーダーはじめ支部の皆さんのこの取り組みの成果だと感じました。

（普及室／浅野綾子）

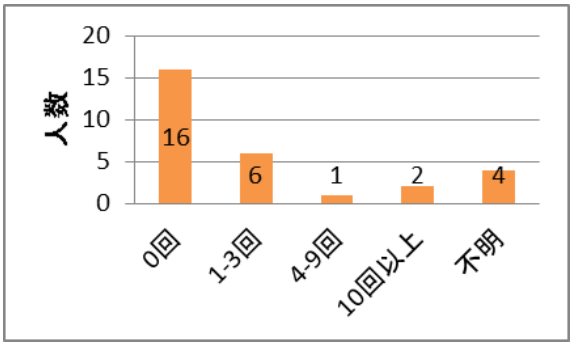
平城宮跡・水上池で初めてのバードウォッチング　（奈良支部）

【日時】2016 年 11 月 23 日（水・祝）9 時 00 分～11 時 30 分
【天候】曇り
【場所】平城宮跡・水上池
【参加人数】50 名（うち一般参加者 29 名）
【リーダー】10 名
【お試し入会】6 名（一般参加者のうち約 20%）
【広報】
　＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook
　＜メール＞一斉メール送信（10/3、6 全国 42,325 名に送信）
　＜チラシ＞探鳥会のご案内（10/20 から全国約 50,000 名に送付）
　＜新聞＞リビング奈良（新聞ミニコミ誌）
　＜テレビ＞NHK「奈良ナビ」（11/19 18 時 30 分）

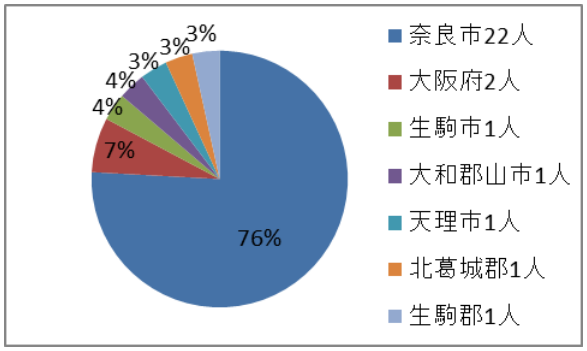
【性別】



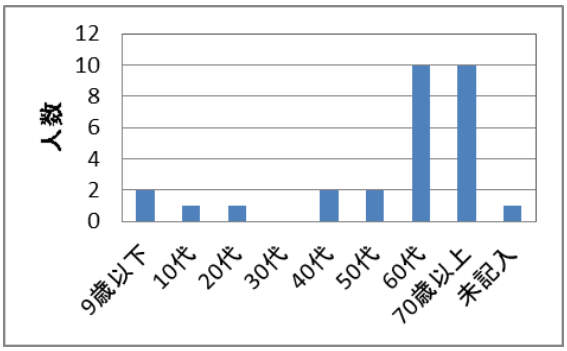
【バードウォッチングの経験回数】



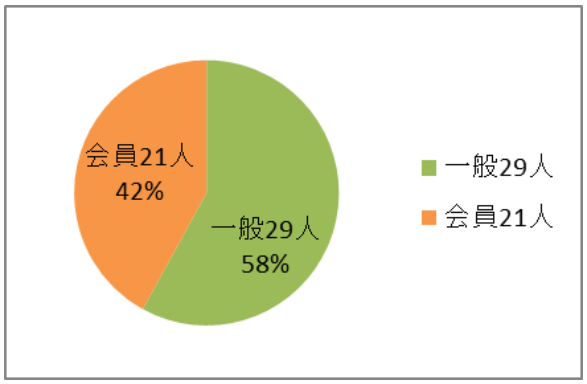
【お住まい】



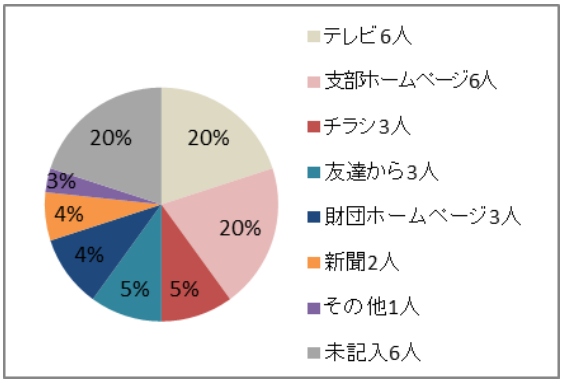
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



※会員は別受付だったため、【一般/会員】以外のグラフはすべて『一般参加者』のみを集計しています。

■探鳥会概要

奈良県奈良市の西部、大小さまざまな古墳が点在する中に平城宮跡・水上池はあります。平城宮跡は世界遺産「古都奈良の文化財」の一つで、交通アクセスのよい観光地である一方、広大な草地、水上池の水辺、人の立ち入らない御陵の森を擁し、多くの野鳥たちが繁殖や越冬のために利用する貴重な場所でもあります。

集合場所の「平城宮跡バス停」から遊歩道を北へたどり、水上池を一周するおよそ 2km 強、ゆっくりと水鳥を観察できる探鳥コースでした。

この日は一般参加者 29 名が集まり、約 10 名のリーダーによる行き届いたフォローの中、終始和やかに探鳥を楽しめる会となりました。

■探鳥会の様子

前日の 10 月中旬並みの暖かさから一転、当日は朝から厚い雲に追われており、12 月中旬並みの気温でした。それでも防寒着に身を包んだ参加者や会員が次々と集まり、会員同士の情報交換やカレンダー販売なども行いながら和気あいあいと受付が進みました。

今年も会員向けの探鳥会と同時開催でしたが、オープニングで「初参加者」と「2 回目以降の参加者と支部会員」の 2 グループに分け、前者は水上池を左回り、後者は右回りとし、混乱を避け少人数でリーダーの誘導のもとじっくり探鳥出来るよう配慮されていました。

初参加者はリーダーから双眼鏡の使い方を教わり、丁寧な解説に耳を傾けながら、オシドリやコガモなど水鳥をじっくり観察しました。用意されたスコープでは水鳥の羽の美しい色に感激し、その羽の構造の解説に驚きつつ、次々と現れる別の種類の水鳥の姿に感心しながら探鳥会は進みました。

池の反対側でちょうど 2 グループが交差、しばらく一緒に観察を行い見てきた鳥の情報交換もして、また分かれて進みました。

池を一周し、探鳥会も終盤、上空を悠然とコウノトリが舞うというサプライズ。誰もがその姿に感激、感動し、ゴールで再会した全員で鳥合わせを行い探鳥会は締めくくられました。

野鳥の魅力と人との交流に寒さを忘れて楽しめた 3 時間となりました。

▲水上池での参加者に解説するリーダー

■参加者の声

20 代女性：前から興味があったので、ちょうど広報で見かけ、ぜひにと参加した。いろいろ見られてよかった。とてもかわいかった。

40 代母・中2男子：小学 3 年生以来、親子で久しぶりの探鳥です。この雰囲気がいいです。いろいろ見られて楽しかった。

60 代男性：こんなに近くでいろいろな種類を見られてよかった

70 代男性：昨日のテレビで知って参加しました。こんなに近い所で野鳥の観察が出来て感心した。

リピーター家族：今回はカワセミを見たいと思っていた。念願かなって見る事が出来て本当によかった

■まとめ

一つのコースを右回り、左回りで案内し各ポイントで適切な解説が行われるなど、野鳥とフィールドを熟知したリーダーだからこその対応が、参加者が安心して参加できる雰囲気を作り出していたように思います。

参加者への対応も、手作りの解説版を使う方や、豊富な経験からくる楽しいエピソードを交えた解説を行う方、ゆったりと世間話をしながら参加者に寄り添う方などリーダーの温かな個性がキラリと光っていました。今回の参加で野鳥の魅力とともに支部活動の魅力を感じてくださったのではないかと思います。

（姫路市自然観察の森レンジャー
／大津賀真紀子）

◆私たちの探鳥会自慢

今年の中部ブロック会議で報告された「変わり種探鳥会」から、日本野鳥の会福井県で開催されたツバメ３種を観察する探鳥会「ご存知ですか？身近なツバメの３兄弟」を紹介します。

「ご存知ですか？身近なツバメの３兄弟」（日本野鳥の会福井県）

【日時】2016 年６月 25 日（土）
８時 30 分～11 時 00 分
【場所】若狭高校～西津橋～雲浜小学校近辺
（福井県小浜市）
【参加者】25 名
【スタッフ】７名

■背景

春の福井県嶺南ブロック会議で、
「もっと多くの方たち、特に若い方たちに野鳥に興味を持ってもらえる取り組みを増やしたい」
という意見があがりました。そこでまずは身近な野鳥であるツバメ ３ 種を取り上げた探鳥会「ご存知ですか？身近なツバメの３兄弟」を開催することにしました。

またこの探鳥会では、嶺南ブロックの仲間でやってみたいと出し合った、以下の探鳥会グレードアップのアイディアにも挑戦しました。

① 市町村の広報誌やケーブルテレビで広く広報
② 野鳥のカードを用意し、参加者へ印象に残った野鳥のカードをプレゼント
③ 感じたことを記録に残せるフィールドノートの作成と配布
④ 種名だけでなく裾野の広い話題を準備
⑤ 可能な限り多数のスタッフで迎え、参加者一人ひとりの鳥見を支援
⑥ バードウォッチングを楽しみながら探鳥マナーも啓発
⑦ アフターバードウォッチング（お菓子やコーヒーなどを用意したヒーリングタイム）の継続

■探鳥会の様子

ケーブルテレビを見て来られた方や、教員をしている会員の呼びかけで集まった小学生とその家族、探鳥会リピーターの方など、２５名が集まり、賑やかに始まりました。

双眼鏡の使い方のレクチャーから始め、ツバメ３種の観察をしました。コシアカツバメが長い尾羽までピンと広げて優雅に滑空する姿に「かっこいい」のラブコール。イワツバメの腰の白や印象的なズングリ姿を橋の上から見つけて歓声。そして雛が並んで親鳥を待っている姿を確認できたツバメには「かわいい」の連呼が起こっていました。

■今後の展望

それぞれの場所で、巣の形や鳴き声などを熱心にスタッフに尋ね、フィールドノートに書き込む子どもたちの姿が印象的でした。出現した鳥の名前を確認していくだけではなく、ときには意図を持って野鳥を観察することも人の心を弾ませるものだと再確認できました。

参加者からは
「子どもと一緒に参加できる今日のようなイベント、またよろしくお願いします」
「名前を知ることは大切ですね。そのことによって今まで無関係だと思っていた鳥が身近になりました」
などの感想をいただきました。来年は、３種とも巣材運びや給餌が確認できる ６ 月上旬までに実施したいと思っています。

▲集合写真

（日本野鳥の会福井県／辻義次、平城常雄）

◆奥多摩支部が好日山荘で机上講座を開催しました

９月 11 日、10 月 15 日に好日山荘池袋店で、日本野鳥の会奥多摩支部・特別出張講座「ようこそ！野鳥の世界へ」が開催されました。開催の経緯と当日の様子を報告します。

■背景

この講座は、今年２月に開催された環境教育関東ミーティングで、財団職員と好日山荘の職員が出会ったことをきっかけに始まりました。

好日山荘では、お店のポイントカードを持っている方向けに登山に関する机上講座を開催しています。山と野鳥をテーマに何か一緒にでいないかと考えた結果、山を活動エリアとする奥多摩支部に、バードウォッチングや山の鳥を解説する講座を開催していただくことになりました。

■企画概要

奥多摩支部では講座参加者が定例探鳥会へ参加することを期待し、定例探鳥会の前にそれぞれの探鳥地をテーマに講座を開催しました。

＜１回目＞
開催日：９月１１日（日）
テーマ：高尾山
次の探鳥会：９月 17 日裏高尾定例探鳥会
＜２回目＞
開催日：１０月１５日（土）
テーマ：御岳山
次の探鳥会：11 月６日御岳山定例探鳥会

※なお講座は来年１月22日にも予定されています。

▲９月 11 日の講座の様子

■広報

９月の開催時には、好日山荘のポイントカードを持つ方へのメルマガ配信と財団で小冊子を申し込んだ方への一斉メール送信を行いました。20 名定員でしたが、応募者多数だったため追加で開催することになり、予定していた 13 時～14 時 30 分に加えて、15 時～16 時 30 分にも開催しました。

10 月の開催時は、好日山荘だけで広報をしてもらい、13 時～14 時 30 分に開催しました。

■講座の様子

同日とも当日の立見参加もある人気の講座となりました。始めにバードウォッチングの楽しみ方を説明し、続いてそれぞれの定例探鳥会のリーダーが高尾山または御岳山を紹介する二部構成で進められました。

講座は、スライドを使い、野鳥の画像や音声を交え、バードウォッチング初心者の方に向けて分かりやすく進められました。バードウォッチングの楽しみ方では、季節と野鳥、環境と野鳥、野鳥の見つけ方、見分け方、聞き分け方など、探鳥地の紹介では、季節ごとに期待できる野鳥や植物、また探鳥会のコースの紹介などがありました。

■定例探鳥会の様子

９月、10 月ともに講座の当日に次回の探鳥会を案内し、また財団からもそれぞれ 17,350 人、10,793 人の方に一斉メール送信で探鳥会のを案内しました。

その結果、一般の方が９月 17 日の裏高尾定例探鳥会には 20 名（全参加者 25 名、好日山荘参加者６名、天候：曇り後雨）、11 月６日の御岳山定例探鳥会には 29 名（全参加者 45 名、好日山荘参加者１名、天気：晴れ）参加し、支部の会員になりたいという方もいらっしゃったそうです。

■まとめ

毎回すぐに席が埋まり、人気の講座であることが分かりました。好日山荘の方の話では、山登りのガイドをしていると鳥の声について質問されることが多いそうです。今後は、奥多摩支部の活動エリアに近い店舗での開催なども検討しています。

好日山荘では、大阪の店舗でも定期的に講座を開催しており、鳥の講座を開催したいと考えているそうです。近畿ブロックで関心のある支部がありましたら、tancho-staff@wbsj.org までご連絡ください。

（普及室／堀本理華）

◆探鳥会保険集計結果（2016 年 10 月分）

10 月は 67 支部からご報告をいただき、計 253 回の探鳥会が開催され、のべ 5,734 人が参加されました。

表 2. 10 月の探鳥会保険集計結果（2016 年 11 月 15 日現在）

支部	開催回数（回）	参加者数		スタッフ数（人）	合計人数（人）
		会員（人）	非会員（人）		
小清水	−	−	−	−	−
オホーツク支部	2	26	2	2	30
根室支部	−	−	−	−	−
釧路支部	2	9	10	2	21
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	−	−	−	−	−
旭川支部	1	9	0	1	10
滝川支部	1	11	1	2	14
道北支部	1	2	8	2	12
江別支部	−	−	−	−	−
札幌支部	4	90	19	11	120
小樽支部	2	13	7	2	22
苫小牧支部	−	0	0	0	0
室蘭支部	2	38	6	6	50
函館支部	0	0	0	0	0
道南桧山	−	−	−	−	−
青森県支部	−	−	−	−	−
弘前支部	2	16	4	2	22
秋田県支部	4	48	4	4	56
山形県支部	2	14	1	3	18
宮古支部	−	−	−	−	−
もりおか	2	24	14	8	46
北上支部	1	10	1	1	12
宮城県支部	2	33	10	5	48
ふくしま	2	42	0	4	46
郡山支部	2	28	0	6	34
二本松	−	−	−	−	−
白河支部	0	0	0	0	0
会津支部	1	4	4	2	10
奥会津連合	−	−	−	−	−
いわき支部	1	14	1	1	16
福島県相双支部	−	−	−	−	−
南相馬	−	−	−	−	−
茨城県	10	89	71	15	175
栃木	−	−	−	−	−
群馬	6	68	27	21	116
吾妻	2	48	0	3	51
埼玉	6	243	60	43	346
千葉県	9	127	37	35	199
東京	14	566	28	76	670
奥多摩支部	16	204	73	44	321
神奈川支部	8	110	30	28	168
新潟県	−	−	−	−	−
佐渡支部	−	−	−	−	−

富山	3	50	15	3	68
石川	1	17	1	3	21
福井県	1	17	4	1	22
長野支部	2	26	4	4	34
軽井沢支部	1	9	1	1	11
諏訪支部	1	8	17	2	27
木曽支部	-	-	-	-	-
伊那谷支部	0	0	0	0	0
甲府支部	1	17	4	2	23
富士山麓支部	1	6	2	1	9
東富士	-	-	-	-	-
沼津支部	1	13	5	2	20
南富士支部	3	53	0	4	57
南伊豆	1	8	0	2	10
静岡支部	3	31	2	5	38
遠江	2	34	10	8	52
愛知県支部	15	188	94	40	322
岐阜	-	-	-	-	-
三重	4	35	22	8	65
奈良支部	4	118	11	8	137
和歌山県支部	1	6	2	2	10
滋賀	5	26	25	10	61
京都支部	8	122	33	19	174
大阪支部	24	395	125	110	630
ひょうご	11	166	103	32	301
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	3	21	12	3	36
島根県支部	1	10	0	1	11
岡山県支部	4	77	42	12	131
広島県支部	2	23	15	6	44
山口県支部	-	-	-	-	-
香川県支部	1	16	2	1	19
徳島県支部	5	65	11	5	81
高知支部	3	33	40	3	76
愛媛	7	46	33	12	91
北九州	3	41	5	3	49
福岡支部	5	53	19	8	80
筑豊支部	3	23	2	3	28
筑後支部	4	19	3	4	26
佐賀県支部	2	27	1	3	31
長崎県支部	-	-	-	-	-
熊本県支部	6	53	15	7	75
大分県支部	1	11	4	1	16
宮崎県支部	2	45	37	3	85
鹿児島	3	82	38	10	130
やんばる支部	-	-	-	-	-
石垣島支部	-	-	-	-	-
西表支部	-	-	-	-	-
全国	253	3,876	1,177	681	5,734

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

（普及室）

◆普及室からのお知らせ

■「探鳥会リーダーズフォーラム東日本」締め切り間近！■

現在、1 月の「探鳥会リーダーズフォーラム東日本」の参加者を募集しています。（50 名先着順、1 月 4 日締切）ご検討中の皆様、お早めにお申し込みをお願いいたします。

◆実施概要
＜時　期＞ 2017 年 1 月 28 日（土）13:00
～29 日（日）12:00
＜主　催＞ （公財）日本野鳥の会　普及室
＜旅行実施＞ （株）南海国際旅行
＜会　場＞ 八王子セミナーハウス
（東京都八王子市）
＜対　象＞ 支部、連携団体の探鳥会に
関わっている方
＜定　員＞ 50 名（定員になり次第締め切り）
＜参加費＞ 10,000 円（1 泊 2 日）

28 日　分科会 A（1 日目）

A-①「入会につながるインターネット活用術入門」　手塚功（栃木）

A-②「野鳥の行動観察から環境保全を目指す探鳥会」　石井隆（神奈川支部）

29 日　分科会 B（2 日目）

B-①「川の上流から下流までを探鳥会でつなごう！たまりゅう（多摩川流域合同探鳥会）のご紹介」
黒田清恵（神奈川支部）
蒲谷剛彦（奥多摩支部）

B-②「営業のプロが伝授！参加者が入会したくなる探鳥会運営」
樋口公平（神奈川支部）

B-③「有明海の現状とラムサール条約」
中村さやか（佐賀県支部）

【申込方法】
＜インターネットによるお申込み＞
下記ホームページよりお申込ください。
https://www.pac-sys.net/nmes-nankai/entry/?tanchou-kantou2017

◆申し込みサイトについてのお問合せ
（株）南海国際旅行
TEL：03-3543-3272　担当：松山
（お申込以外のお問合せは下記財団普及室へ）

＜メール・FAX・郵便でのお申込み＞
普及室宛に、「探鳥会リーダーズフォーラム申し込み」と明記の上、以下の項目をお送りください。
（1）お名前（ふりがな）
（2）支部名
（3）住所
（4）電話番号
（5）メールアドレス・FAX 番号
（6）希望分科会（A-①・A-②）
（B-①・B-②・B-③）
（7）参加動機

【申込期間】
2017 年 1月4日（水）まで
（定員になり次第締め切り）

【その他フォーラム全般についてのお問い合わせ】
（公財）日本野鳥の会　普及室　堀本、箱田
〒141-0031　東京都品川区西五反田
3-9-23 丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
メール：tancho-staff@wbsj.org

（普及室／箱田敦只）

■『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版の取り組み■

◇まずは探鳥会？

『フィールドガイド日本の野鳥』を増補改訂版（2007 年）から担当させていただくようになった私は、その著者故高野伸二の、基礎を欠かさないという教えを生かしているつもりです。あるがままの野鳥に親しむ上で基礎的なこと、大切なことを漏らさないようにしている例では、フィールドマナーを書き足しました。1998 年に初心者向けの『新・山野の鳥』、『新・水辺の鳥』を担当した際は、フィールドマナーで 1 頁を割くことに異論は出ませんでしたが、上級者向けとされていた『フィールドガイド日本の野鳥』で識別以外のことにスペースを使うことには、当時、抵抗もあったように記憶しています。

『新・山野の鳥』では「フィールドマナー」に続けて探鳥会について 6 行を割きましたが、『フィールドガイド日本の野鳥』でも増補改訂版以後は、「はじめに」や「野鳥の見分け方」で探鳥会をお勧めしています。

野鳥との出会いは一瞬のこともあるし、間近で観察しやすい昆虫や植物のように、図鑑と見比べることが簡単ではありません。同じ鳥でも、距離や角度、天候などによってさまざまに見えるので、「慣れる、比べる、絞り込む」というわかり方とともに、探鳥会を紹介することは大切なことだと考えています。

ちなみに、普及室では、小冊子を多くの方に申し込んでいただくことを通じてコンタクトできる人を増やし、各地の探鳥会などをお知らせするように努めています。

◇どこまで近づいてよいか？

高野による解説文は、今読み直しても「さすが！」と思わせる部分が多々あります。声の解説でも、さえずりと地鳴きにとどまりません。ミソサザイ、メジロ、ムクドリなどで、警戒声という表記は新版でも残しています。私はさらに、増補改訂版でスズメの交尾の時の声、シジュウカラの幼鳥の声や警戒の声なども書き足しました。

新版も増補改訂版と同じく P21 に・・・シジュウカラでは巣に人や獣が近づくとジュクジュクジュクと濁った連続音を発するし、タカ類の接近に対しては細く鋭い声をあげる・・・と記してあるのは、フィールドマナーのひとつ、「近づかないで野鳥の巣」でも参考にしてもらえると思っています。どこまで近づいてよいか？については、種や営巣環境、繁殖ステージによっても違うし、警戒には雌雄差、個体差もあるので、姿勢や行動とともに、声によって親鳥が警戒していると推測できたら距離を置く、という判断が妥当と思われます。野鳥のさまざまな声でその意味が研究されたものは多くはありませんが、シジュウカラを長年観察してきた経験から、巣の近くで親鳥がジュクジュクジュクと鳴いたら警戒していると考えてきました。

◇ジジジは危ない？集まれ？

11 月 18 日に開催された鳥ゼミ（＊）は鈴木俊貴さん（京都大学　生態学研究センター）が講師でした。立教大学時代にシジュウカラの警戒声の研究で話題になった方で、新聞記事を目にされた方もおられるでしょう。それは、親鳥の警戒声が巣内の雛に適切な捕食者回避行動を誘発する上で役立っている（雛は、ハシブトガラスに対する警戒声を聞くとうずくまり、ヘビに対する警戒声を聞くと巣立ちが近い場合は巣穴を飛び出す）という研究でした。今年の日本鳥学会の大会では「シジュウカラの言語能力：単語と文と文法規則」というタイトルで研究発表をされています。

鳥ゼミでは今年の学会発表に沿って、シジュウカラが異なる意味を持つ声を組み合わせ、より複雑なメッセージをつくれるという研究を紹介してくれました。異なる意味を持つ声とは危険を知らせる「ピーツピ」と、仲間を呼ぶ声「ヂヂヂヂ」だそうで、その「ヂヂヂヂ」は、私がジュクジュクジュクと書いてきた声と同じでした（鳥ゼミの場で私が質問して、鈴木さんに確認していただきました）。つまり、私が警戒を意味するように解釈してきたジュクジュクジュクには、仲間を呼ぶ意味があることになります。このことについては、後に鈴木さんから論文（Suzuki TN et al. 2016）を送ってもらいました。

鈴木さんのような研究が進むことで、野鳥の声の意味が解明されていくものと思われますが、さまざまな声を聞くことができるものとして、松田道生さんによる『CD 鳴き声ガイド　日本の野鳥』が当会から発行されました。シジュウカラ 1 種でも、さえずりは東京、日光、三宅島での録音、加えて警戒、雄 2 羽の戦い、存在の確認、早春に聞かれる声、雛、幼鳥と続き、亜種イシガキシジュウカラのさえずり、警戒ま

でも収録されています。

（＊）鳥ゼミ：鳥類学の研究者や研究に関心がある人による自主的な勉強会で、中心となる上田恵介さんが当会副会長に就任されたのを機に、当会の西五反田事務所で開催するようになった。情報はメーリングリストで共有しており、参加希望者は、以下のアドレスにコンタクト下さい。（join-tori-zemi.x6g2@ml.freeml.com）

（普及室／安西英明）

▲新版で谷口高司さんに直していただいた図版の例、今回は増補改訂版で追記したイエスズメの雄（夏羽）です。新版の際に、色味と体型を修正しました。

◆今月の購読者

探鳥会スタッフ通信 12 月号の電子メール版の購読者数は、先月より 1 名増えて 847 名です。支部ごとの購読者数は以下の通りです。

表 3. 探鳥会スタッフ通信 12 月号電子メール版の購読者数（2016 年 12 月 13 日現在）

支部	購読者数	支部	購読者数
小清水	1	福井県	10
オホーツク支部	6	長野支部	2
根室支部	0	軽井沢支部	2
釧路支部	2	諏訪支部	5
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	70	木曽支部	1
旭川支部	4	伊那谷支部	1
滝川支部	1	甲府支部	4
道北支部	1	富士山麓支部	0
江別支部	0	東富士	0
札幌支部	4	沼津支部	3
小樽支部	3	南富士支部	2
苫小牧支部	2	南伊豆	2
室蘭支部	5	静岡支部	2
函館支部	0	遠江	12
道南桧山	2	愛知県支部	33
青森県支部	1	岐阜	5
弘前支部	4	三重	19
秋田県支部	3	奈良支部	3
山形県支部	5	和歌山県支部	5
宮古支部	1	滋賀	19
もりおか	5	京都支部	31
北上支部	2	大阪支部	26
宮城県支部	39	ひょうご	17
ふくしま	4	NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	11
郡山支部	1	島根県支部	10
二本松	1	岡山県支部	23
白河支部	2	広島県支部	8
会津支部	2	山口県支部	4
奥会津連合	0	香川県支部	6
いわき支部	1	徳島県支部	6
福島県相双支部	0	高知支部	1
南相馬	0	愛媛	13
茨城県	21	北九州	12
栃木	45	福岡支部	11
群馬	25	筑豊支部	21
吾妻	1	筑後支部	6
埼玉	39	佐賀県支部	5
千葉県	18	長崎県支部	1
東京	55	熊本県支部	14
奥多摩支部	47	大分県支部	3
神奈川支部	20	宮崎県支部	4
新潟県	2	鹿児島	3
佐渡支部	1	やんばる支部	0
富山	3	石垣島支部	1
石川	29	西表支部	2
		合計	847

（普及室）

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の無料配信について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも受信できます。（無料です）
ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.org へお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。
配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

★編集後記

各地で開催されている「会員を増やすための探鳥会」も折り返し地点を過ぎました。各地の様子をお伝えしていますが、ご参考になりますでしょうか？私は原稿を読みながら、目に浮かぶ様子を楽しませて頂いております。
今年も様々な事があった年ですが、酉年の来年は日本野鳥の会が何かと注目を浴びる！・・・と期待して、世の中に鳥の世界が広がることを願います。

今年も一年間、ご愛読有難うございました。
どうぞ良いお年をお迎えください。

（普及室／植木陽子）

日本野鳥の会
探鳥会スタッフ通信 第45号
◆発行
（公財）日本野鳥の会　2016年12月16日
◆担当
普及室　普及教育グループ
〒141-0031
東京都品川区西五反田3-9-23丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
E-mail：tancho-staff@wbsj.org